

## 『障害者問題研究』バックナンバーのご案内

各号 定価2,750円(本体2,500円+税) 個人年間購読11,300円(送料込)

## ●第50巻 第1号 (通巻189号)

## 特集 入院中の子どもの教育

小児がん等の難病で入院中の高校生の教育保障の動向と課題  
栗山宣夫／入院中の子どもの心の支援 谷口明子／入院中の子どもを支える教師の専門性とは何か 副島賢和／【報告】病弱総合支援学校のセンター機能による支援 篠原淳子／病院における高校生が患者に対する支援 寺田和樹／病棟保育の現状と課題 林典子／スウェーデンにおける病気の子どもへの教育ケアの動向 高橋智 他

## ●第49巻 第4号 (通巻188号)

## 特集 障害のある人の思春期における発達と教育実践

障害の重い人の思春期における発達と教育実践 白石恵理子／特別支援学校中学部生徒の発達の特徴と教育実践 羽山裕子・松島明日香／思春期における療育・教育実践の歴史から学ぶ 垂髪あかり／【実践報告】放課後等児童デイサービス 益本裕美／特別支援学校中学部 石田誠／施設内高等部訪問学級 片山伴子／【手記】娘との生活を共に紡いで 尾崎洋子 他

## ●第49巻 第3号 (通巻187号)

## 特集 教育実践における教材

現代の学校教育をめぐる政策・提言と教材 川地亜弥子／障害のある子どもの学校教育と教材・教具 越野和之／障害のある子どもと即興的表現活動 赤木和重／七生養護学校「ここからだの学習」における「教材・教具」 渡邊好造／【実践報告】肢体不自由特別支援学校 若山健太／小学校特別支援学級 猪澤由起子／病院内学級 橘岡正樹・佐藤薫 他

## ●第49巻 第2号 (通巻186号)

## 特集 障害福祉現場で働く職員の育ちと集団化

育てあい育ちあう職員の育ち試論 峰島厚／新自由主義における福祉労働者の「個別化」と集団性の意義 深谷弘和／【報告】ゆたか福祉会研修部 向幸子／放課後等デイサービスゆうやけ子どもクラブ 村岡真治／東近江圏域合同職員研修の取り組み 松村優子／【家族として障害福祉現場の職員に望むこと・期待すること】内藤佳子／小川真奈美 他

## ●第49巻 第1号 (通巻185号)

## 特集 乳幼児期の発達保障と児童発達支援の課題

児童発達支援の機能と役割 井原哲人／自治体における障害児福祉計画の現状と課題 新井利民／発達支援と地方自治 若林隆泰／連帯して療育の質を高めよう地域づくり 長合川貴一・中塚まち／【報告】寝屋川市立あかつき・ひばり園 安藤史郎／児童発達支援センターひまわり 飯室智恵子／【政策動向】障害児通所支援2021年度報酬改定の問題点 中村尚子 他

## ●第48巻 第4号 (通巻184号)

## 特集 地域社会へのインクルージョンと暮らしの場

座談会 暮らしの場に値する障害者施設をめざして／デンマークとスウェーデンにみる障害のある人たちの住まいと暮らし 藪部英夫／グループホーム制度30年と今後の課題 伊藤成康／【手記】相田あづさ／上野耕一／【報告】あかしあ労働福祉センター 北村典幸／麦の芽福祉会 川瀬加代子・菅原裕子／【運動】全国障害児者の暮らしの場を考える会 播本裕子 他

## ●第48巻 第3号 (通巻183号)

## 特集 障害基礎年金の制度的課題と生活問題

障害基礎年金の現状と課題 鈴木静／障害基礎年金の認定格差とあるべき姿 市川亨／障害基礎年金と児童扶養手当の併給へのたたかひの今日的課題 仲尾育哉／障害年金の認定問題 下堂前亨／【報告】無年金障害者の立場から 原静子／精神障害者支援の現場から 松本みを／無年金障害者の生活問題 無年金障害者の会・田中智子 他

## ●第48巻 第2号 (通巻182号)

## 特集 「9歳の節」と発達保障

詩や作文にみる9歳頃の子どもの発達と指導 川地亜弥子／聴覚障害教育と「9歳の壁」 脇中起余子／自閉スペクトラム症と9歳の節 別府 哲／【実践報告】作文にみる子どもたちの成長と学級集団 寺前彩香／仲間と学ぶ総合学習 元治智子／通常学級で学習に困難を示す子どもへの指導 鈴木有 他

## ●第48巻 第1号 (通巻181号)

## 特集 知的障害教育の現在 その固有性と役割

知的障害教育の制度とその今日的状況 越野和之／戦後の「特殊教育」と知的障害概念 清水貞夫／生涯発達支援の視点から見たダウン症候群 菅野敦／知的障害者の「権利としての生涯学習」 國本真吾／【報告・実践報告】当事者のニーズから考える知的障害教育の機能・役割 高橋智・池田敦子・田部絢子／特別支援学校高等部 塩田奈津／小学校特別支援学級 桜井佳子 他

## ●第47巻 第4号 (通巻180号)

## 特集 高度成長期の障害者問題と発達保障

高度成長期の発達保障運動における主体形成 河合隆平／障害の重い子どもたちの「生きる証」と発達へのまなざし 玉村公二彦／筋ジストロフィー患者の生活圏拡張運動と「筋ジストロフィー」 清水貞夫／全員就学への道程における重度重複障害児問題 中村尚子／【歴史に学ぶ】広島乳幼児サークル・塩見陽子／滋賀・能勢ゆかり／島根・特別支援学校 野津保 他



## 乳幼児期の療育と発達保障

## 特集にあたって

藤林清仁

乳幼児期における療育の取り組みは、発達支援にとどまらず、療育へつなげるまでの仕組みづくりから、保護者への支援まで、多岐にわたる。

障害者基本法の2011年改定において、「療育」についての国、地方公共団体の実施義務が、以下の通り定められた。「第十七条(療育)国及び地方公共団体は、障害者である子どもが可能な限りその身近な場所において療育その他これに関連する支援を受けられるよう必要な施策を講じなければならない。2 国及び地方公共団体は、療育に関し、研究、開発及び普及の促進、専門的知識又は技能を有する職員の育成その他の環境の整備を促進しなければならない。」

しかし、児童福祉法の「児童発達支援」は、事実上指定事業者に実施をゆだねられ、営利主義事業所の参入もあって、「何のための療育なのか」目標を見失い、療育が個別訓練に置き換えられて、子どもの生活の時間、空間、活動、人間関係が、切り刻まれるような実態になっている。

乳幼児健診などで障害が早期に見えれば、子どもらしい生活に根ざした療育を受けるならば、障害の状態は変化し、発達は確かな歩みをはじめ、そのことを、1960年代後半からの療育保障の運動と実践、自治体独自の療育システムが明らかにしてきた。

近藤論文は、親子が安心して暮らすために、母子保健から子育て支援、そして療育保障を充実させる取り組みを論じている。中村論文では、療育の場である通園事業や通園施設が制度的にどのような歴史をたどってきたのか論じている。特に報

酬の問題、利用するための判定の問題は今も継続している。池添論文では、制度に組み込まれた保護者支援において、子どもの行動に対する親の対応が画一化する傾向にあることを批判している。

白石論文では、療育の方法として、特別な訓練などではない、「生活の組織化」を中心とした生活の積み重ねの実践について論じている。個別の訓練だけによるのではなく、安心できる人間関係をとおして、遊びや生活を創造していくという「保育の基本」が療育にもつながっていく。

療育は、乳幼児期の子どもに対する発達保障なのであって、保育所、幼稚園、認定こども園に通う子どもと同等に生活の拠点として定めて、そのなかで「特別なケア」を受けられる場として児童福祉法に規定されるべきである。

さらに、次の実践を取り上げた。山口報告は、「赤ちゃん教室」の取り組みから、0歳児からの親子療育を親子で実施する意味を報告している。林報告は、運動障害のある子どもの、集団の中で育つ実践を報告。高田報告は、並行通園児の実践を通して学んだ職員の学びについて述べている。

本特集は、①この50年余の乳幼児期の療育の制度の変遷とそこにある問題・課題を総括し、現下の政策課題を率直に提案し、②制度・政策をめぐる「せめぎあい」のなかにあつて、「子どもらしい生活および活動」によって発達を保障しようとしてきた療育の理念、内容・方法の役割と意義を明らかにし、営利主義、訓練主義の広がりに対置するものである。

(ふじばやし きよひと 同朋大学社会福祉学部)